

楽しい子ども会・

魅力ある子ども会にむけて

—めざそう子どもの手による子ども会—

- アイディアと創造性を発揮し

思いっきり挑戦できたとき

子どもたちは喜びを感じます。

- 仲間とともに体験し、共感し

まわりに認められたとき

メンバーとして力を発揮

します。

- 子ども達は

自らの成長を感じる場所に

魅力と生きがいを感じます。



愛知県子ども会連絡協議会

専門指導者会編集

子どもたちがワクワクした活動

「みんな元気にもちつき大会」

老人会の方々に伝統文化のお餅つき、お餅料理作りを教わる。（東海市）…「普段あまり話すことがない老人会の方々から、いろいろなことを教わりながらもちつきができ、昔の人は大変だったんだなと思いました。」

どんな子ども会活動にしたいですか？…「子供だけでなく地域の方々といろんな事ができたらいいと思いました。」

「子ども会”絆”会旗作り」

愛・地球博記念公園で、染め付けの体験とカレーご飯の炊き出し（みよし市）…「みんなで協力して野菜を洗ったり、切ったりして楽しかったです。」「身近にある植物で赤や黄色にきれいに染まったのでびっくりしました。」「かまどでご飯を炊くのは初めてで、わくわくしました。」

どんな子ども会活動にしたいですか？

「学年や男女に関係なく仲良く活動できる行事をふやしていきたいです。」「自分たちがやりたい行事を話し合い、家族のみんなにも協力してもらいながら、いろいろな活動をしていきたい。」

「夢活動」愛知県子ども会連絡協議会感想文より

楽しく魅力ある活動を目指して

子ども会の活動は、子ども自らが進んで活動を進めるように運営をする事が大切です。

「子どもの手による子ども会」「活動の原則」をいつも心にとめながら進めましょう。

単位子ども会の活動は、子どもの生きる力を育て、親子、三世代の交流を進め、地域に活力を生むことが目標です。

特別なイベントをすることが会の目的ではありません。

まわりのお父さん、お母さん地域の人たちが喜んで参加し、協力してもらえる内容、活動にしましょう。

子どもたちのアイデア生かし、子どもたちの力で進めましょう。



地域の特長を生かした活動、地域に知らせる活動（広報活動）を進めましょう。

魅力ある子ども会とは

1. 子ども自らが成長を感じる場であること。
2. 親がわが子の成長を感じる場であること。
3. 地域社会が子どもの存在を好意的に受け入れてくれる場であること。
4. 会員が会の一員である事を自覚し、積極的に参加できるように、会が民主的に運営されている。

などが上げられます。

1) 子どもにとって魅力ある会の活動とは

- ① 自分が皆から信頼されていると感じることが出来る活動。
- ② 自らの成長を感じる事が出来る活動。
 - ・ 多少の困難性があり、それを仲間とともに乗り越えたとき
 - ・ 自分の力を発揮できる役割を持って挑戦し、それを達成できたとき
 - ・ うまくできた体験を、仲間・周りの大人・両親・兄弟と共有できた活動
- ③ 創造力が発揮でき、新しい体験、発見がある活動
 - ・ 異年齢による遊びや自然体験
 - ・ 非日常的な新しい体験
 - ・ 子どもたち自身が考えた活動

- ・家庭や学校では体験できないような、しっかりと時間をとって準備した活動

2) 子供たちに任せましょう

活動の体験を通じて、協力の仕方、計画性や積極性、役割分担と責任、思いやりや友情といったものを体験的に学び、社会性を身につけることが子ども会の目的です。

大人がやるより「手がかかる」と感じるかもしれませんが、子ども会の目的は何かのイベントをすることや大会を開くことではありません。それらはあくまで手段です。

＝一つ一つ時間をかけ計画的に＝

子どもの手によって活動を進めるためには、多くのことはできません。

1. プログラムはよく選び、子どもたちが時間と手間をかけてできるように心がける。

2. 「何をいくつかやったか」ではなく、「子どもたちが主体的にどう関わってやったか」をプログラムを進めるときの評価の基準にする。などが必要でしょう。

＝班・ワークグループ活動を進めよう＝

「全員参加役割分担の原則」を守るためには、大きな人数を一つの単位として活動するのではなく、次の様な工夫が必要です。

1. 年齢構成を考えた班に分けて、行動を共にする。

子どもたちは**班活動**の仲間と互いに支え合い、新しい課題にも安心してチャレンジできます。

育成者の皆さんが集団を見守り管理する上でも有効です。

班長、副班長、記録係など決め、班長会などを開く

2. 作業ごとのワークグループを作る。

役割分担をすることで子ども自身の手によって進めることができ、子どもにそのプログラムへの参加意識が芽生えます。

3. 「2人で1役」を

助け合って役割を果たし成功させる体験は子どもの自信につながります。

3) 時代に合った活動

・創造力あふれる活動を

役員さんは毎年入れ替わっても、子どもたちは子ども会のベテランです。「去年と同じイベント・同じ内容で。」では子どもたちは離れていってしまいます。

子どもたちの知恵や創造力を生かし、様々な活動に取り組むこ

とも必要です。

- ① 文化活動・創作活動や伝統文化・伝統的な遊びや工作
- ② 地域の住民・三世代・障害者との交流ができる活動
- ③ 生産活動や社会活動

などを地域の大人たちと協力して進めることで地域の活力が生まれます。

①～③はまるきり別物ではなく、互いに組み合わさってこそできる活動です。

(具体的な事例)

- 折り紙，ペーパークラフト，ペットボトル工作をし遊ぶ。
- 地域のシルバー世代と親が協力して田植えから稲刈りまでをする。もちつきをする。農作物を作りそれを料理する。
- お年寄りに教わり、わらじを作りそれを履いて散歩をしたり、川遊びに出かける。
- グループごとにいろいろなお話を作って演じる。
- 父さんやシルバー世代に教わって竹とんぼ，水鉄砲，たこを作り遊ぶ
- 地域のボランティア団体と協力して、障害者と一緒に街を回り「人に優しい街作り」のための政策提言をする。

など色々考えられます。ただ、こうした活動を進める意識や知識は子ども達には薄いので、育成者からの提案や助言が必要です。

魅力ある子ども会活動のための活動原則

1. 子ども自身が活動内容を選択する原則

—子どもの計画ですすめよう—

2. 新しい活動内容を生み出す原則

—子どものアイデアを生かそう—

3. 企画立案するプロセスを重視する原則

—子どもたちのどうしよう、こうしようを大切にしよう—

4. 目標—内容—方法の統合の原則

—目標達成を目指そう—

5. 全員参加の役割分担の原則

—一人一人の席と役割をもとう—

6. 発達課題重視の原則

—成長の道しるべを大切にしよう—

7. 要求課題と必要課題統合の原則

—子どもの願いと大人の願いをあわせよう—

8. 地域・ふるさとに根ざした活動の原則

—地域の自然・文化を大切にしよう—

9. 継続的・持続的・日常的に活動できる

年、季節、月などを単位として、継続的に取り組むことができる内容であること。無理な活動計画は立てない。

プログラムのたて方

